

報道発表

平成19年6月20日
内閣府
財務省

第13回法人企業景気予測調査（平成19年4 - 6月期調査）について

調査の概要

調査時点 平成19年5月25日

調査対象期間 判断項目：19年4～6月期及び6月末見込み、19年7～9月期及び9月末見通し、19年10～12月期及び12月末見通し。

計数項目：19年度上期実績見込み、19年度下期見通し。
設備投資の19年度上期は4～6月期実績見込みと7～9月期計画を合計したもの。19年度下期は計画。

調査対象企業の範囲 資本金1千万円以上の法人企業

(単位：社)

		全規模	大企業	中堅企業	中小企業
全産業	母集団法人数	1,162,176	6,287	30,414	1,125,475
	標本法人数	15,117	5,238	3,591	6,288
	回答法人数	11,794	4,591	2,697	4,506
	回収率(%)	78.0	87.6	75.1	71.7
製造業	母集団法人数	202,815	2,315	7,294	193,206
	標本法人数	4,422	1,969	931	1,522
	回答法人数	3,668	1,784	753	1,131
	回収率(%)	82.9	90.6	80.9	74.3
非製造業	母集団法人数	959,361	3,972	23,120	932,269
	標本法人数	10,695	3,269	2,660	4,766
	回答法人数	8,126	2,807	1,944	3,375
	回収率(%)	76.0	85.9	73.1	70.8

(注) 本調査において大企業とは資本金10億円以上の企業を、中堅企業とは資本金1億円以上10億円未満の企業を、中小企業とは資本金1千万円以上1億円未満の企業をいう。

B S I (Business Survey Index) の計算法

例 「貴社の景況」の場合

前期と比べて

「上昇」と回答した企業の構成比・・・40.0%

「不変」と回答した企業の構成比・・・25.0%

「下降」と回答した企業の構成比・・・30.0%

「不明」と回答した企業の構成比・・・5.0%

B S I = (「上昇」と回答した企業の構成比 40.0%)

- (「下降」と回答した企業の構成比 30.0%) = 10.0%ポイント

景況

貴社の景況

19年4～6月期の「貴社の景況判断」BSIを全産業で見ると、大企業は「下降」超となり、中堅企業、中小企業は「下降」超幅が拡大している。

先行きを全産業で見ると、大企業、中堅企業は19年7～9月期に「上昇」超に転じる見通し、中小企業は期を追って「下降」超幅が縮小する見通しとなっている。

貴社の景況判断BSI（「上昇」 - 「下降」社数構成比）

（単位：%ポイント）

		19年1～3月 前回調査	19年4～6月 現状判断	19年7～9月 見通し	19年10～12月 見通し
大企業	全産業	6.2	(4.2) 0.9	(9.9) 12.0	11.5
	製造業	0.1	(4.1) 2.2	(11.8) 14.5	13.8
	非製造業	9.8	(4.3) 0.2	(8.8) 10.6	10.2
中堅企業	全産業	3.1	(2.8) 5.1	(8.2) 5.5	10.6
	製造業	8.9	(4.9) 1.1	(11.3) 9.3	16.5
	非製造業	1.2	(2.1) 6.4	(7.2) 4.2	8.7
中小企業	全産業	16.7	(7.0) 25.1	(4.1) 12.9	5.4
	製造業	22.5	(6.2) 27.6	(1.7) 11.0	2.1
	非製造業	15.5	(7.2) 24.6	(4.6) 13.3	6.1

（注）金融・保険業を含む。19年4～6月、19年7～9月の（ ）書きは前回調査時の見通し。

国内の景況

19年4～6月期の「国内の景況判断」BSIを全産業で見ると、大企業、中堅企業は引き続き「上昇」超となっており、中小企業は「下降」超幅が拡大している。

先行きを全産業で見ると、大企業、中堅企業は「上昇」超で推移する見通し、中小企業は期を追って「下降」超幅が縮小する見通しとなっている。

国内の景況判断BSI（「上昇」 - 「下降」社数構成比）

（単位：%ポイント）

		19年1～3月 前回調査	19年4～6月 現状判断	19年7～9月 見通し	19年10～12月 見通し
大企業	全産業	13.4	(10.1) 9.9	(10.3) 11.5	11.3
	製造業	5.9	(7.3) 7.1	(8.2) 10.1	9.0
	非製造業	17.9	(11.8) 11.5	(11.5) 12.4	12.6
中堅企業	全産業	6.6	(7.9) 8.7	(9.7) 8.4	7.5
	製造業	0.8	(6.2) 8.4	(10.2) 8.1	10.1
	非製造業	8.5	(8.4) 8.7	(9.5) 8.4	6.7
中小企業	全産業	9.8	(2.4) 16.0	(2.3) 12.4	7.8
	製造業	16.6	(5.8) 17.8	(4.7) 9.4	6.2
	非製造業	8.4	(1.7) 15.6	(1.8) 13.1	8.2

（注）金融・保険業を含む。19年4～6月、19年7～9月の（ ）書きは前回調査時の見通し。

雇 用

19年6月末時点の「従業員数判断」BSIを全産業で見ると、大企業、中堅企業、中小企業いずれも引き続き「不足気味」超となっている。

先行きを全産業で見ると、大企業、中堅企業、中小企業いずれも「不足気味」超で推移する見通しとなっている。

従業員数判断BSI（「不足気味」 - 「過剰気味」社数構成比）

（単位：ポイント）

		19年3月末 前回調査	19年6月末 現状判断	19年9月末 見通し	19年12月末 見通し
大企業	全産業	18.6	(11.3) 15.3	(10.7) 13.6	13.2
	製造業	9.7	(5.7) 8.1	(5.0) 7.4	7.3
	非製造業	23.9	(14.6) 19.5	(14.0) 17.2	16.6
中堅企業	全産業	21.6	(14.9) 19.9	(13.9) 18.2	18.0
	製造業	11.7	(9.5) 11.7	(8.5) 11.9	10.3
	非製造業	24.8	(16.6) 22.5	(15.7) 20.2	20.5
中小企業	全産業	14.7	(9.6) 11.9	(9.0) 11.0	12.0
	製造業	10.2	(7.3) 9.4	(6.9) 9.6	11.3
	非製造業	15.7	(10.1) 12.4	(9.4) 11.3	12.2

（注）金融・保険業を含む。19年6月末、19年9月末の（ ）書きは前回調査時の見通し。

19年度における資金調達方法

19年度における資金調達方法を、重要度の高い順に全産業で見ると、大企業、中堅企業、中小企業いずれも「民間金融機関からの調達」が第1位となっている。

第2位は、大企業、中堅企業、中小企業いずれも「内部資金による調達」となっている。

第3位は、大企業では「資産の流動化・証券化による調達」、中堅企業では「リースによる調達」、中小企業では「公的機関からの調達」となっている。

（回答社数構成比：％）

		1位	％	2位	％	3位	％
大企業	全産業	民間金融機関からの調達	71.1	内部資金による調達	62.4	資産の流動化・証券化による調達	16.7
	製造業	民間金融機関からの調達	72.0	内部資金による調達	62.5	資産の流動化・証券化による調達	21.3
	非製造業	民間金融機関からの調達	70.6	内部資金による調達	62.3	公的機関からの調達	16.8
中堅企業	全産業	民間金融機関からの調達	63.3	内部資金による調達	54.9	リースによる調達	16.4
	製造業	民間金融機関からの調達	65.6	内部資金による調達	54.9	企業間信用による調達	18.4
	非製造業	民間金融機関からの調達	62.6	内部資金による調達	54.9	リースによる調達	15.8
中小企業	全産業	民間金融機関からの調達	68.1	内部資金による調達	53.3	公的機関からの調達	39.0
	製造業	民間金融機関からの調達	74.0	内部資金による調達	49.0	公的機関からの調達	42.5
	非製造業	民間金融機関からの調達	66.8	内部資金による調達	54.2	公的機関からの調達	38.3

（注）金融・保険業は含まない。10項目中3項目以内の複数回答による回答社数構成比。

売上高

19年度は、2.2%の増収見通しとなっている（上期2.3%の増収見込み、下期2.2%の増収見通し）。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに増収見通しとなっている。

(前年同期比増減率：%)

	19年度		上期		下期	
	()	()	()	()	()	()
全産業	(1.4)	2.2	(1.2)	2.3	(1.7)	2.2
製造業	(2.1)	3.2	(2.1)	3.4	(2.1)	2.9
非製造業	(1.2)	1.8	(0.8)	1.7	(1.5)	1.8

(注)金融・保険業は含まない。()書きは前回調査結果。

経常利益

19年度は、4.5%の増益見通しとなっている（上期1.7%の減益見込み、下期10.1%の増益見通し）。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに増益見通しとなっている。

(前年同期比増減率：%)

	19年度		上期		下期	
	()	()	()	()	()	()
全産業	(6.2)	4.5	(0.7)	1.7	(11.1)	10.1
製造業	(2.8)	2.2	(5.8)	4.2	(11.4)	8.2
非製造業	(8.6)	6.3	(5.8)	0.2	(11.0)	11.5

(注)金融・保険業は含まない。()書きは前回調査結果。

設備投資

19年度は、3.3%の増加見通しとなっている（上期8.1%の増加見込み、下期1.0%の減少見通し）。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに増加見通しとなっている。

(前年同期比増減率：%)

	19年度		上期		下期	
	()	()	()	()	()	()
全産業	(5.3)	3.3	(6.7)	8.1	(15.6)	1.0
製造業	(0.5)	6.2	(27.5)	11.9	(20.2)	1.2
非製造業	(8.9)	1.5	(5.0)	5.8	(12.5)	2.3

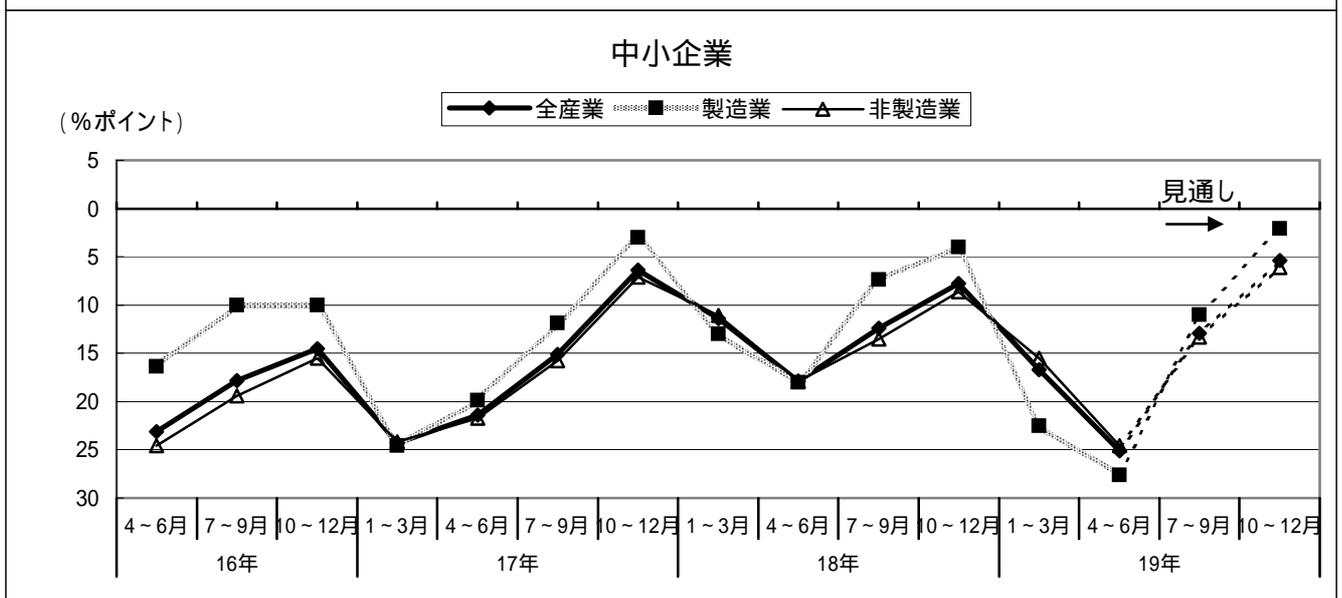
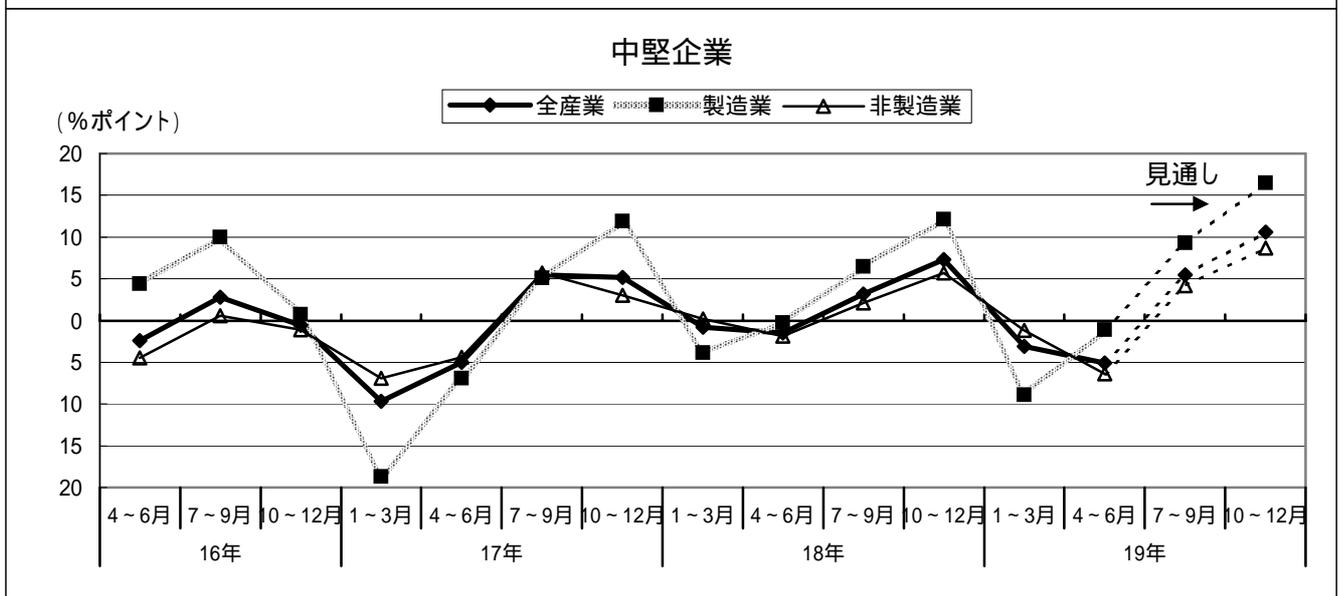
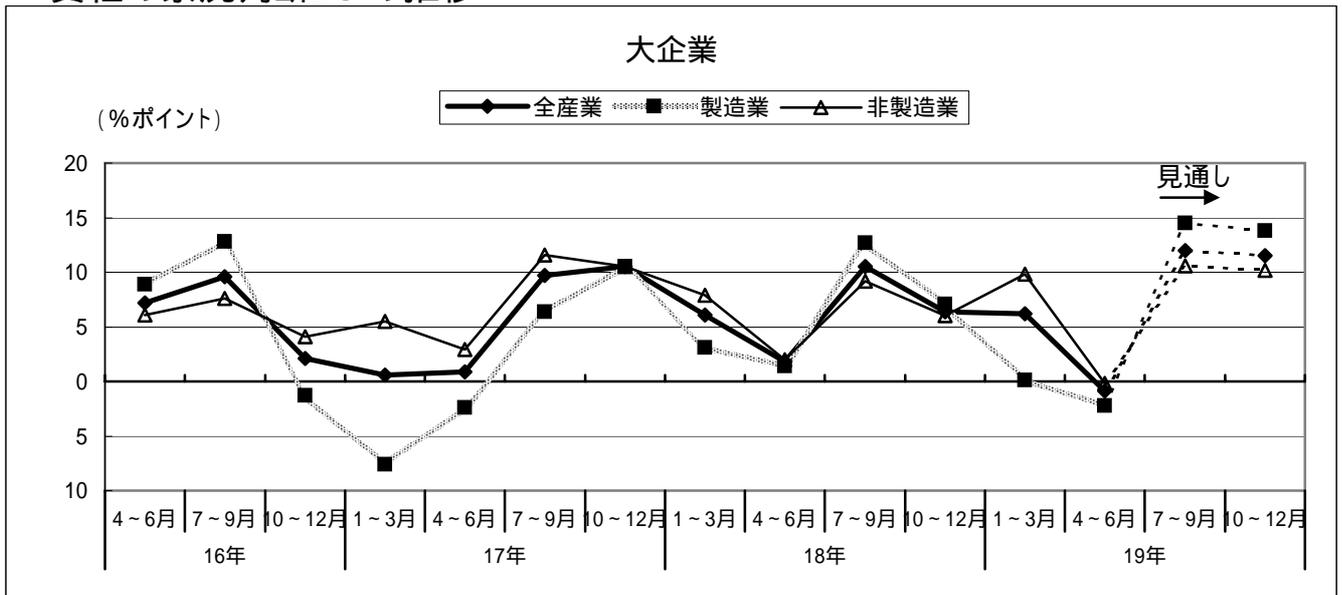
(注)金融・保険業を含む。ソフトウェア投資額及び土地購入額を除く。

()書きは前回調査結果。

連絡・問い合わせ先
 内閣府経済社会総合研究所景気統計部
 Tel.03-3581-0534(ダイヤル)
 内閣府経済社会総合研究所ホームページアドレス
<http://www.esri.go.jp/>
 財務省財務総合政策研究所調査統計部
 Tel.03-3581-4111(内線)5327,5163
 財務省ホームページアドレス
<http://www.mof.go.jp/>

(参考)

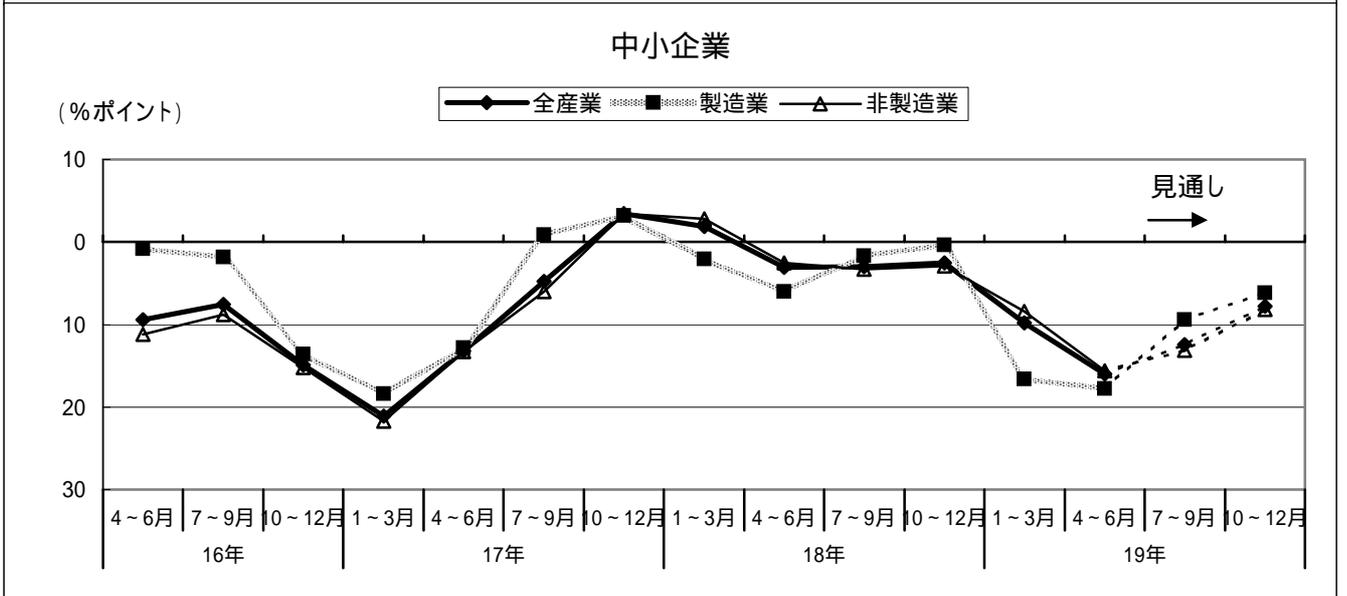
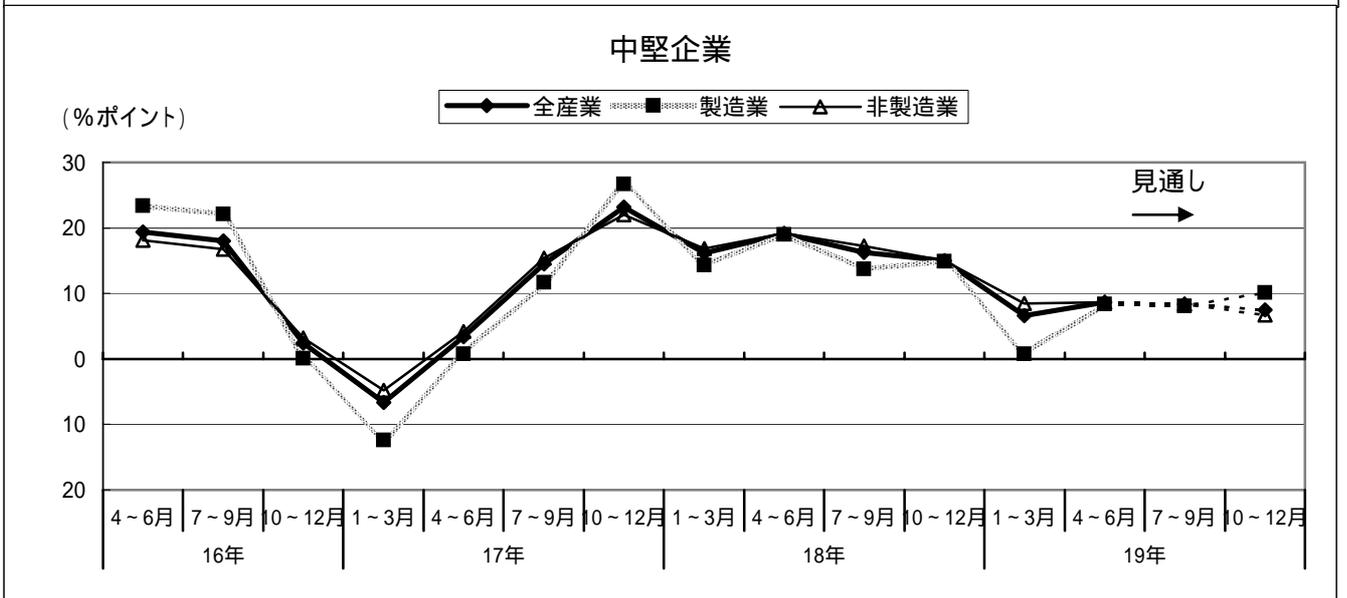
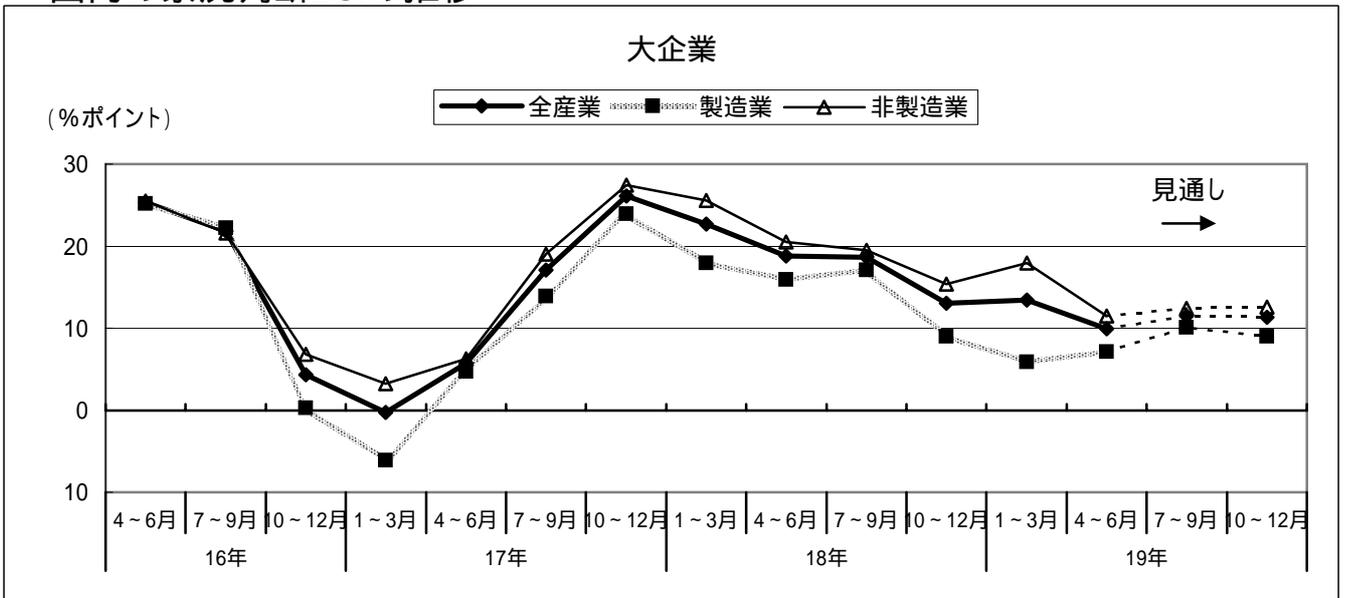
貴社の景況判断BSIの推移



(注)平成19年4-6月期までの数値は、各調査時期における現状判断。

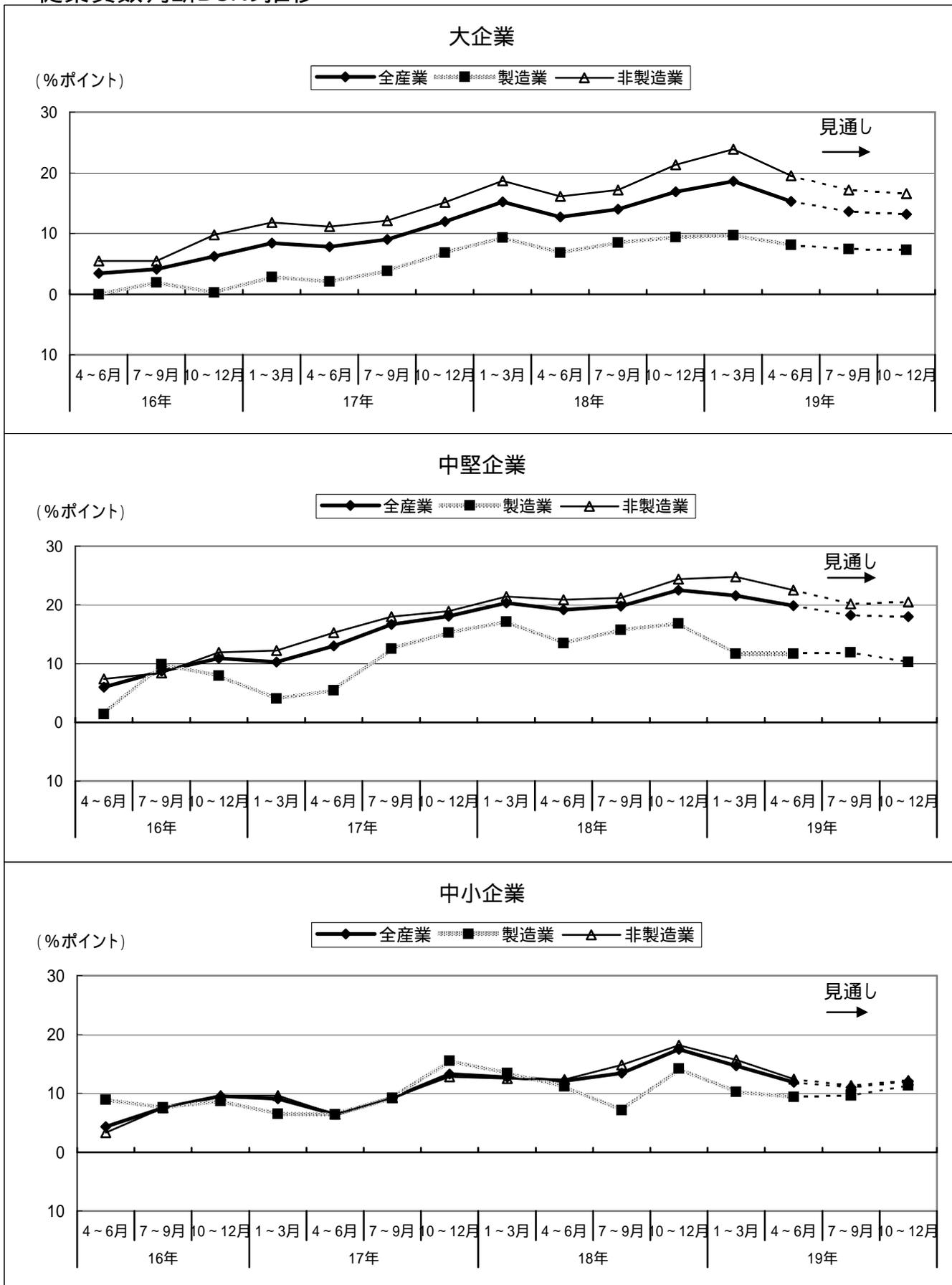
平成19年7-9月期、平成19年10-12月期の数値は、平成19年4-6月調査時の見通し。

国内の景況判断BSIの推移



(注)平成19年4-6月期までの数値は、各調査時期における現状判断。
 平成19年7-9月期、平成19年10-12月期の数値は、平成19年4-6月調査時の見通し。

従業員数判断BSIの推移



(注)平成19年4-6月期までの数値は、各調査時期における期末の現状判断。
 平成19年7-9月期、平成19年10-12月期の数値は、平成19年4-6月調査時の平成19年9月末、12月末の見通し。